

Y13b 分野の枠を超えた若手研究者が発信する新しい理科教育の試み

成田憲保、本間典子、石澤敏洋、萬直行(東大)、村山真紀、本郷奈央美(横市大)、清水佐紀(東京医歯大)、星野友、藤田大悟(東工大)、石井雅幸、福田章人(東京都・九段小)、木村かおる、田代英俊(科学技術館)、高山英男(日本地質学会)、宮川明子(芝浦工大)、奥田郁美(東海大)、尾崎有紀(奈良女子大)、齋田佳菜子(JST-PRESTO)、佐藤桃子(東京農工大)、鈴木あやの(株式会社ロッテ)、西山哲史(筑波大)、西山千晶(京大)、平田尚己(東京理科大)、丸幸弘、長谷川和宏(株式会社リバネス)

近年、子どもたちの理科離れという言葉がよく聞かれるようになり、その問題意識のもと理科教育のより一層の充実を求める提言が、天文学会を始め各分野・地域の理科教育系学会で取り上げられている。こうした中で、最先端の科学をわかりやすく子どもたちへ伝える「科学コミュニケーション」と呼ばれるような活動の必要性は、この問題に取り組む多くの方々の共通した認識である。

この科学コミュニケーションという研究のアウトリーチ活動では、実際に最先端の研究にふれ、子どもたちに近い存在である若手研究者たちが大きな役割を担うことができると考えられる。こうした活動は既に多くの研究分野で独立して行われてきているが、特に幅広い分野にまたがった活動はこれまでなかなか行われてこなかった。そこで我々のグループでは、天文～生物まで幅広い研究分野に携わる若手研究者の協力により、小学校高学年～高校生を対象とした「宇宙・地球・生命」に渡る3日間の「アストロバイオロジー」授業カリキュラムを開発し、地域の科学館・学校の先生方・企業の協力者との連携のもと、2005年度に2ヶ所(対象：小学生・高校生)で教室を実施した。本講演では今年度行われたこれらの教室の経緯と成果、そして今後の展望をまとめて報告する。